

## インパクト投資の意義と課題 —今、金融による価値創造が試されている—

安間 匡明

### 目 次

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. はじめに             | 5. わが国のインパクト投資市場    |
| 2. インパクト投資とは何か      | 6. インパクト投資をめぐる国内の議論 |
| 3. インパクト投資の種類・事例    | 7. 国内の推進状況          |
| 4. グローバルなインパクト投資の状況 | 8. 終わりに             |

わが国でも、インパクト投資が注目され始めている。インパクト投資は広義のサステナブルファイナンスの一種であるが、狭義のESG投資とは目的が異なるものである。内外で環境・社会の解決に向けた取り組みが強く求められる中、インパクト投資に期待が集まるのは当然である。本稿では、インパクト投資の概要、意義、疑問点、現状と課題、金融機関が取り組む意義について説明する。

### 1. はじめに

わが国でも、「インパクト投資」が脚光を浴びている。新聞紙上や電子版メディアでも、「インパクト投資」や「インパクト」という言葉を頻繁に目にするようになった。しかし、それはまだこの1年半ぐらいのことである。

2020年8月になって初めて、日本経済新聞（以下、日経）の経済ナレッジバンクに「インパクト投資」という言葉が追加された。1年後の2021年8月に、日経は「インパクト投資に広がり、看

板倒れを防止」と題して、「ESG（環境・社会・企業統治）投資の中で、投資先の企業を通じた環境や社会への貢献度を測定・開示する「インパクト投資」が広がっている」と報じた。この頃から、その他主要な国内メディアがインパクト投資を取り上げ始めている。2021年11月には、日経文庫から須藤奈応著『インパクト投資入門』が出版される。2022年になると、2月に日経は4回の特集記事を組み、その初回において「Beyond ESG（ESGの先）」といわれるインパクトファイナンスが広がりを見せている。企業の環境や社会、



安間 匡明（あんま まさあき）

一般財団法人社会変革推進財団エグゼクティブアドバイザー（非常勤）。1982年現・(株)国際協力銀行入行。世界銀行日本理事室出向、開発金融研究所副所長、業務企画室長。経営企画部長、執行役員企画管理部門長などを経て取締役（2017年退任）。大和証券(株)顧問を経て、現在コンサルティング会社役員。経済同友会会員。京都大学経済学部卒業、英国LSE（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）大学院Diploma（経済学）修了、東京大学博士（工学）。